

ターントクルこども館整備基本構想の概要

平成 29 年 11 月
焼津市こども未来部

第 1 章 焼津市の現状

本市では、屋内の子育て支援施設として、大井川児童センター「とまとぴあ」を保有していますが、施設規模は市全域の利用需要に対して十分とは言えず、また、子どもや保護者が集い・遊べる機能は配置していますが、近年、子育て支援施設に求められる機能が多様化する中で、「学び」の機能が配置されていません。

屋内の子育て支援施設の現状

市名	施設名	開設年度	延床面積	利用者数
焼津市	大井川児童センター	H16	722 m ²	12,399 人/年
島田市	こども館	H24	1,350 m ²	90,429 人/年
	初倉児童センター	H21	353 m ²	26,191 人/年
	川根児童館	S60	219 m ²	9,128 人/年
藤枝市	キッズパーク	H28	609 m ²	133,949 人/年

※利用者数は平成 28 年度の数値

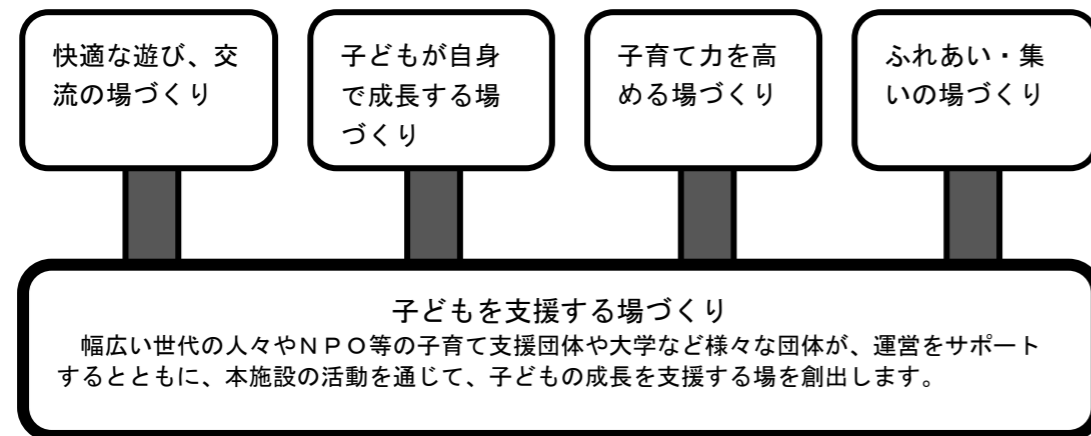
第 2 章 施設整備に向けた基本的な考え方

1 基本理念

～集い・遊び・学び～

未来を担うすべての子どもたちが、限らない夢と創造力を持ち、健やかに成長していくために、大井川児童センターが有する集い・遊びの機能に加え、読書や体験などの成長段階に応じた学びの機能を有する複合的な機能を配置し、子どもを中心とした保護者や幅広い世代の人々、子育て支援団体等が交流できる子育て支援の拠点を目指すことを基本理念とします。

2 基本的な考え方（施設の方向性）



3 基本的な機能

【基本的な施設の機能と利用者の関係】

利用者・サポート役	乳幼児	小学生	中学生	保護者	NPO等の関係団体・大学等
子どもの豊かな感性や創造性を育む機能	○	○		△	△
ここならではの遊び・学びの機能	○	○	○/△	△	△
子どもたちの居場所・活動の場の機能		○	○/△	△	△
ふれあい・交流による世代間交流の機能	○			○/△	△

○：主たる利用者 △：サポート役としての関わり

4 施設整備の基本的な考え方

- ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設
- 子ども・保護者の目線を重視した施設
- 団体利用も念頭に置いた施設計画
- ゾーニングや利用者動線などを工夫した施設
- 環境に配慮した施設

5 施設の規模

建物延床面積は 3,000 m²を上限とします。

6 整備場所

整備場所は、市有地かつ更地であり早期着手が可能な点、公共交通機関の利便性やにぎわいの創出などの観点から、旧福祉庁舎跡地とします。

整備場所の概況

所在地：焼津市栄町五丁目 135-1 ほか	建ぺい率：80%、容積率：400%
地目：宅地	その他：(県道沿) 商業地域
面積：1584.9 m ²	(駅前通沿) 商業地域
用途地域：商業地域（準防火地域）	(西側) 第 1 種住居地域

7 施設の名称

施設の名称については、多くの来場者でにぎわう施設となることを願い、「(来場者が) たくさんくる」を焼津市の方言で表した「ターントクルこども館」とし、愛称は市民からの意見を参考に今後決定します。

8 対象とする年齢

対象とする年齢は、0 歳から 18 歳未満とします。

第 3 章 概算事業費、整備スケジュール

1 概算事業費

概算事業費は、約 15 億円を見込み、財源は、ふるさと寄附金基金及び合併推進債の活用を検討します。

2 整備スケジュール

平成 32 年度中の開館を目指し、以下のスケジュールで整備に取り組みます。

		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
施設整備	基本構想	○			
	測量	○			
	設計		○	○	
	工事			○	○
	開館				○

第 4 章 管理運営の方向性

1 運営の基本的な考え方

基本理念に掲げる子育て支援の拠点施設として、より質の高いサービスを安定的かつ継続して提供できる施設運営を行います。

- 市民一人ひとりのニーズに応えるきめ細かな運営
- 子育て支援のネットワークを活用した運営
- 民間資源を活用したより質の高い運営
- 効果的かつ効率的な運営

2 管理運営形態

全国の類似施設における運営形態は、多くの施設で民間への管理委託や指定管理者制度が導入され、民間事業者やNPO、大学等のこれまで培った専門的な知識や様々な経験、運営能力、経営ノウハウが活用されています。また、運営に係るコストの縮減や、より質の高いサービスの提供が期待されます。

以上を踏まえると、ターントクルこども館の管理運営形態は「公設民営」が適切と考えられます。